園部共同作業所だより

園部共同作業所発行
〒６２２－００１１
船井郡園部町上木崎町入道３２
電話０７７１－６２－３２４９
ＦＡＸ０７７１－６３－２９４１

ＮＯ５３

思い出せば

むかし、地域の作業所などほとんどなかった頃、多くの病院で、入院中の患者さんの生活ンベル維持などを目的に、内職作業などをしたものでした。最近のように、どんどん退院していくことが、とても難しかった頃のことです。社会には、いわゆる“受け皿”とないるようなデイ・ケアー、作業所、生活支援センター、訪問看護、ヘルパーなど殆どありませんでした。私がソーシャルワーカーとして働いてきた病院でも、院内作業場を作り、そのシグループのリクリエーションやミーティングを通して、仲間作りをし、単身生活への自信を持ってもらうというような流れがありました。

そんな中、園部作業所は、各地にさきがけ随分早くからオープンし、退院した人達の大きな支えになっていました。その中で、今も思い出す人があります。Ｍさんです。今から二〇年近くも昔のことですが、二〇歳代で発病し、五〇歳を過ぎて園部作業所に通所される方が高い」とか「人より仕事が下手で……」とか云いながらも休まず通所されるようになってからは、もう二度と入院されることもありませんでした。元来口下手で、人の中へはいるとオドオドしてしまうというタイプの方でしたが、外来通院時には「家族は冷たい誰も話をしてくれない」「作業所では所長さんがいつも声をかけてくれるのでうれしい」と云ってこられたのを今も思い出します。

作業所などで「働く」ことは勿論大事なことですが、「人とのつながり」の中で生きるというのが、どれ程心を豊かにしてくれるものかとつくづく考えさせられたことでした。

今では、各地に集える場所が随分増えましたが、グループに入ることをためらわれる人も沢山おられます。そんなＭさんの話などから、独居老人問題まで一緒に話し合ったりしています。人間には、人と人の間のぬくもりがだいじなんでしょう……と。

長岡病院
ソーシャルワーカー
冨田和美

ニックネームがないのなんでだろう

彼にはニックネームがない。通所歴十六年にして愛称がないとは不思議なこと。そこで、よくよく観察してみる。やっぱり皆んな名前を呼んでいる。彼は身長もあるし、体格も立派（お腹の出っぱりが少し気になるが）歌が上手でスポーツマン、人とのケンカやトラブルなど聞いたことがない。あまり好人物なので、かえってニックネームがつけられないのか。喜怒哀楽の感情が表に出ないので仲間への印象が薄いのか、なんでだろう　理由はハッキリしない。ともかく彼にはニックネームがない。そんな彼ですが一度だけ強烈に印象に残る出来事がありました。それは平成十年十月十八日京家連卓球大会、場所は京都市障害者スポーツセンター。園部共同作業所とウエノ診療所との優勝をかけた大一番でした。彼と対戦相手の体力と技術を全て出しつくした壮烈な試合展開は、観衆全員をその場にくぎずけ、スバラシイ感動を与えてくれました。常日頃は疲れやすく、しんどいと言ってよく休む彼を知っている応援の仲間も、どこにそんなガンバリ根性があったんや、驚かされました。結果は準優勝となりましたが、この卓球の名勝負は園部作業所の伝説として今も残っています。しかしながら最近の彼はサッパリ元気がありません。スポーツレクレーションは不参加が続いているのです。これはいかがなものか、早く調子をとりもどして又新たな感動と伝説を作ってほしいなと願う今日このごろなのであります。

所長　杉山俊夫

レクリエーション・行事

八月五日　海水浴、由良海岸にて
九月六日　「とっておきの芸術展」京都文化博物館
石田哲さん絵画出展

寄贈品

澤田孜様　菓子
城島幹夫様　ジュース
山口雅典様　紅茶
松下様　コーヒー
龍野さち子様　くだもの
田畑幸雄様　スイカ
明田はきもの店様　クツ、モード履

寄付金

石田寛子様
佐橋光子様
つぼみ会様
（平成一五年九月三〇日現在）

天国に行ったバタヤン

六年まえから作業所に通所されていたバタヤンこと田畑明さん（享年四六歳）が八月六日糖尿病の合併症の為、死去されました。

入所以前から糖尿病を患い、私が勤務した四年前も毎日血糖値安定の為、病院へインシュリンの注射をしに行っていました。昨年十一月頃、腸閉塞になり、それからは入退院のくり返しで、糖尿病からくる視力障害のため、片眼〇'〇三ぐらいの視力しかなく、最後の一年は見ているのもつらいほど、病気との闘いでした。

今ふりかえってみると、色々なことが走馬燈のように思い出されます。作業所のレクレーション行事で色々な所に旅行に行ったこと、海水浴で、「水泳部や」と言って平泳ぎを見せてくれたこと、又、コーラス大会の時、曲を決めかねていると中心になって考えてくれたこと、作業中通所者同士がけんかしそうになった時、体を張ってとめてくれたこと、誕生会の時、毎回カラオケを歌うのですが、歌がとてもうまかったことなど、あげればきりがありません。

生事もがんばり屋で、ユーモラスな会話がうまく、性格も良いのですが、一つ自分の体を大事にしないところがありました。便の調子が悪い時でも整腸剤など、病院からもらった薬を「こんなん飲んでもきかへん」と全然飲んでいませんでした。もっと自分の体を大事にしてほしかった。でも四六年間、精一杯生きたと思います。

私達作業所のメンバーは、今でも「バタヤンこんなこと言ってたな」と言いながら、仕事をしています。みんな、バタヤンのことを一生忘れないでしょう。バタヤン、私達のことをいつまでも天国で見守っていてね。

松本純子

行けて良かった海へ

平成十五年八月五日火曜日、日本海由良海水浴場へ行きました。朝九時園部大橋に集合マイクロバスで日本海に向け出発、海水浴場に着くと青空が曇り空になり昼食時にはあいにく雨が降り出すこと。でも雨もすこしでやみ、イカ焼きを食べて水着に着替えて泳ぐ人、足を海水につける人、二十五分後浜辺で海をバックに記念写真を取ってもらって楽しみのスイカ割り、皆なかなか割れません。それぞれのポーズでスイカ割り。

杉山先生にスイカを切ってもらい皆で食べました。

そして皆服を着替えて帰りじたく、バスに乗って途中舞鶴のトレトレセンターに寄り五分ぐらい休憩そしてバスに乗り和知の道の駅で又休憩して帰りました。

今年は全員で十一、二人の参加でしたが私は参加して良かったです。海は見ているだけでも気持ちのいいものです。

来年は少しでも多くの人に参加してもらいたいものです。

今年は仕事の都合で参加しない人は作業所で仕事でした。

帰りのバスの中で冷房がききすぎて寒いくらいでした。

疲れたのかバスの中でねている人も有りました。

黒田先生は作業所でしたが杉山先生、松本先生、塩内先生は参加されていました。

私は作業所に来て始めてのレクレーションでしたがとても楽しい一日でした。

来年はいいお天気だといいのにとおもいました。

来年も頑張って又行きたいと思っています。

澤田重子

園部共同作業所の実習を通して

立命館大学　今西　舞

私は八月に杜会福祉士実習で園部町杜会福祉協議会からこちらの共同作業所で一日実習をさせていただきました。

実習では、作業所の概要についての説明を聞かせていただいたり、グループホームの見学や実際に仕事の体験をさせていただきました。

私自身、精神障害とはどういったものであるのかという障害自身についての理解も不十分なまま実習に取り組んでしまったのですが、作業所では利用されている方々や職員の方々に暖かく迎え入れていただきとても楽しく過ごすことができました。

実習を通し、精神に障害を持つ方々に対しては地域杜会の中での通院医療、生活や就労の場、相談の場が必要であることを改めて感じると同時に、今後は医療も含めた地域のサポートシステムの整備充実が求められており、そのためにはまず、地域住民の理解や協力が欠かせないと思いました。また、私たちの暮らすまちをどのような「まち」にしていくかということは、私たち自身にゆだねられており、地域住民である私たちがまず、地域にある資源や生活問題などを知り・問題解決にはどのようなことが必要であるのかについて考えることが大切であると感じました。

今後はこの実習経験を生かし、大学で杜会にある制度や政策といったフォーマルな資源について学ぶとともに、誰もが住みよいまちづくりについて学びを深めて生きたいと考えています。短い時間の中、貴重な体験をさせていただき、また親切ご御指導をいただきました所長様をはじめ、職員の方々、利用者の方々には感謝をしております。ありがとうございました。

編集後記

強烈な残暑がやっとすんだら、メチャ涼しい秋がやってきました。皆様の体調はいかがでしょうか。作業所では「肥満大敵」食欲の秋よりスポーツの秋を目指しています。